

ことばの教室 学習指導案

千葉市立幕張小学校

指導者 大岩 恵子

1 対象児 口蓋化構音のA児

2 学習内容について

(1) 児童の実態

本児は、「ラ行の発音が不明瞭」という保護者と担任からの主訴で、□年生の□月より週1回他校から通級してきている。舌先挙上ができず、ラ行は舌背が上がり、歪んだガ行になる口蓋化構音である。記憶力は、3音節程度。絵画語彙発達検査は、平均の評価である。やや早口で、発音が不明瞭な時もあるが、よく話し、明るい男の子である。指導については、口の体操を行った後、本来ならばラ音から先に取り組むところであるが、ラ音よりもリ音が先に出たのでリ音から学習し、会話レベルまではほぼ発音できるようになった。そして現在はラ音を学習中である。ル、レ、ロ音も舌挙上し、発音できるようになりつつあるところである。

言葉の教室ではまじめに練習によく取り組んでいる。教室でできなかった舌の動きについては、家で自主トレーニングをする位熱心である。保護者も、協力的かつ寛容な気持ちで子どもに接している。

(2) これまでの経過

□年生時は、舌先挙上ができず、舌の力も弱かったので、舌のトレーニングに取り組んだ。リップトレースや、ポッピング、舌打ちやゴリラの真似等が徐々にできるようになり、舌先挙上もできるようになった。舌先挙上できてからは、ラとリの音作りの指導を始めた。リは、口が小さくて挙上しやすかったようで、学習の終わりの挨拶「ありがとうございました。」のリ音が、早くから出せた。リ音を一番に取り組み、発音練習もスムーズに進んでいき、会話レベルまでほぼできるようになった。その後にはラ音の練習に入った。ラ音においては、奥舌が上がる癖がなかなか抜けず、音作りには時間がかかったが、rの練習、[r+あ]の練習、単音節、無意味音節、単語練習（語頭）に取り組んだ。

□年生時は、引き続き舌のトレーニングと、ラの単語練習（語頭・語尾・語中）に取り組んだ。現在は、練習プリントのラの入っている単語はほぼ出せるようになった。（「から」は言えない）発音の様子は、意識して言えるレベルから、見た瞬間に言うことができるレベルにまで上達してきた。夏休み後はさらに音がよくなり、聞きやすい音になった。ガに近い歪み音になることは少なくなってきたが、まだ確実ではなく、舌をどうすればよいかコントロールができずに、首をひねることがある。特に、ラ音を連続で言わせると、だんだん舌が挙がらなくなったり、奥舌を上げる癖が出やすかったりする。まだ舌先に十分な力が備わっていないことや、ボディイメージが十分でない、奥舌が上がりやすい状態であり、コントロールすることがうまくできないという課題があげられる。練習は、鏡や口腔模型や図を使ってイメージしやすくしてきたつもりであるが、さらにわかりやすい指導法についていろいろ試していきたい。なお、聞く力については、教師の出題した「ラ」、「ガ」の異同弁別や、正誤弁別、自身の発音した正誤弁別を正しく評価することができた。今までは、「ラ」音が「ガ」音になりやすかったこともあり、舌挙上し、「ラ」に近い音が出ていたら合格にしていた。しかしレベルアップを図り、9月からは、あやふやな音は不合格にするようにした。子ども自身、評価基準の違いにやや戸惑い、どういう音がよいのか、どうしたらよいのか迷っている状態である。自己評価を聞くと、あやふやな音も合格になっており、今までの評価のままか、耳が本当の「ラ」を理解していない疑いもある。

る。教室の環境も音が反響しやすく、音を聞き取りづらい環境にあったので、反響しないように工夫していききたい。そして、聞く力を高めていききたい。

(3) 指導方針

上記のような実態を踏まえ、以下のような点を指導方針として考えた。

《発語器官の運動機能を高める》

舌のボディーイメージができるように、舌平ら、舌先の挙上だけでなく、いろいろな動きを行っていききたい。また、ゆっくりな動き、素早い動き、連続も自由にできるようにしたい。他に、舌先を使った遊びを取り入れ、楽しみながら舌先の力もつけていききたい。

《構音指導》

練習の方法は、ラの連続音に挑戦する練習をする。9月当初は単音なら言えたが、2回は言えなかった。秋休み後は、5回まで言えるようになった。(確実ではない) 次回は8回、その次は10回と、記録に挑戦させて、連続音がいつでも確実にできるようにしていきたい。なお、自分の舌がよく見えるようにビデオカメラを使用し、状態を確認しながら進められるようにするとともに、ボディーイメージもできるようにしていく。舌先挙上していても奥舌が持ち上がってしまう時は、あめ玉を使って、奥舌が持ち上がらないように工夫をしていきたい。

習熟練習として、単語や、句、文の入った自作の絵本を見ながら、「ラーメン屋さんごっこ」をしていききたい。「ラーメン屋さんごっこ」は、「いらっしやい。」「〇〇ラーメン、ください。」「ラー油ください。」「ラムネをください。」「はらいっばい。」「さらください。」「いくらですか。」「さようなら。」等ごっこ遊びをしながら、楽しく発音練習をしていききたい。マンネリ化になりがちな短文練習に、遊び感覚で楽しく取り組み、発音の向上を促すとともに、日常に搬化していくこともねらいたい。

3 指導計画

時期	発語器官（特に舌）の運動機能を高める。	構音指導	弁別学習
H23 9月	☆年間を通して下記の運動を行う ☆舌尖のコントロール性を高める運動 ・リップトレーサー ・ティーストレーサー	○r音の学習 ○リ音の学習 (ア) 構音位置、舌の形の確認 (イ) 単音・無意味単音節 (ウ) 語頭→語尾→語中 (エ) 短文	○異同弁別 ○正誤弁別 ・自分の出した音の自己評価
10月	☆舌先の筋力を高める運動 ・フォロースティックすもう ・ティップ		☆その時その時で、学習している音について上記の内容を行う
11月	・ティップスティック	○ラ音の学習 (ア) 構音位置、舌の形の確認 (イ) 単音・無意味単音節 (ウ) 語頭	
H24 12月	☆舌側縁の筋力を高める運動 ・ポッピング		
1月	・サッキング		
2月	☆舌を口蓋に挙上するトレーニング ・舌打ち		

3月	・オープン&クローズ	(エ) 語尾	↓
4月	・タングドラッグバック		
5月	・フルフルスポット		
6月	・すもう	(オ) 語中	
7月	☆平らな舌作り ・舌平ら		
9月	・舌お皿 ・奥まで平ら	(カ) 短文・連続音の練習 ・短文「らがいっぱい」 ・連続音の挑戦	
10月	(あめ玉で舌のもり上がりをとる)		
	↓	↓	

4 本時の指導

- (1) 目標 ○「ラ」の連続音を10回程度、正しく発音することができる。
○教師が発音した「ラ」の正誤弁別を聞き分けることができる。

(2) 展開

学習活動と内容	教師の支援	資料等
1 本時の学習内容と目標を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> 自由会話で本児の様子を把握する。 学習予定を書かせ、見通しをもたせる。 	ノート
ラの連続が 何回言えるか 挑戦しよう。		
2 ロや舌の体操をする。 舌平ら ポッピング リップトレーサー 他	<ul style="list-style-type: none"> 目標は何回にチャレンジするか、本人に言わせ、励ます。 舌の体操を行い、舌の脱力や、舌の動きをよくする。 ・ 	鏡
3 口でじゃんけんをする。 ぐー (ラの形) 舌が上歯の後ろにつけて、舌の裏を見せる。 [ラー]と発音する。	<ul style="list-style-type: none"> 楽しみながら舌先のトレーニングを行う。 じゃんけんの勝敗は、普通のじゃんけんのルールに加え、ぐー、ちょき、ぱー以外の舌の形をしたり、「が」と発音したりした時は、負けにする。 	じゃんけんのルール説明の紙 じゃんけんの記録用紙 テレビカメラ ペンライト

<p>ちよき 舌を上唇につけて、舌の裏を見せる。</p> <p>ぱー (アの口の形) 口を開ける。 [ぱー]と発音する。</p> <p>4 音作りをして、連続音に挑戦する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ラ」音のポイントを確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ① 舌の裏を見せる。(前歯4本分) ② うなる。 ・ビデオカメラを見ながらポイントをおさえ、ラの連続音を10回程度発音する。 ・録音テープにとり、教師が正誤弁別をする。 <p>5 ラーメン屋さんごっこをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・役割を決める。(お店屋さん お客さん) ・「いらっしゃいませ」「勝浦ラーメンください」等、短文を読む。 ・今日の読みについて教師が評価をする。 <p>6 まとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日の学習の課題について話したり、次回の目標について話したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師がわざと間違えて気付かせるようにする。 ◇教師が「ガ」と誤ったことに気づくことができたか。 <ul style="list-style-type: none"> ・正しい舌の形や位置を、テレビを見ながら、自分で確認できるようにする。 ・「ガ」との比較もし、舌の形の違いや、ボディーイメージをしっかりとさせる。 ・うなることを一緒に行い、理解できるようにする。 ・「ラ」音のポイントをおさえても調子が悪い時は、あめ玉を舌にのせて、舌の形を作るようにする。 ◇「ラ」の連続音を10回程度、正しく発音することができたか。 ・正しく発音できたかどうか教師が評価する。できた時は大いに褒め、できなかった時は、どこが悪いか教える。 ・ごっこ遊びは、楽しくできるように、やり直しは、1回にする。 ・ラ以外はできなくても指摘しない。 ・発音については、前回と比べてどうか評価し、進歩を認めるようにする。役割も果たせたことを称賛する。 <ul style="list-style-type: none"> ・今日の努力と成果を認め、次時への意欲につなげる。 	<p>「ラ」の発音の仕方カード</p> <p>テープレコーダー</p> <p>「ラ」がいっぱいの本</p>
---	---	---